

# 綴り方教室

## 読みやすい文章を

### 段落を作る

非常に読みにくい文章として、段落がきちんと作られていないものがある。始めから終わりまで全く改行なしで最後まで文章が続いているものや、一文ごとに改行されているもの。これらは非常に読みにくい。

段落を作ること、意味上のまとまりをビジュアル的に表示して、読む人にとっても「ここで、ひとまとまりだな。」とわからせるのである。

また、句読点が適切に使われないと非常に読みにくいものになる。句点（。）がなかったり、句点（読点（、））になっていたたり、読点（読点（、））が全くなかったりすると、読む気もなくなる。

(A)

日本語の表現には、省略が多いと言われる。

主語に限らず、ほかの成分でも、しばしば省かれる。

これは、いかにも文にルールがないことのようにとらえられがちだが、そうではない。

日本語の表現は、場面あるいは文脈と強い関係をもつて成り立っており、必要でない場合は省略することのほうが、むしろ自然だとさえ言えるのである。

(B)

まず問いと答えという関係から考えてみよう、

「私は京都へ行きました、」という文は書かれた文としては完璧である、しかし果たして話の文脈の中でどのような場合にこの文が出現するであろうか、もし質問が「京都へ行ったかい、」というものであればその場合は最も単純な形としては言語そのものを使用しないでうなずきでもって例文の意味を含んだ応答もできる、

(C)

日本語の表現には、省略が多いと言われる。主語に限らず、ほかの成分でも、しばしば省かれる。

これは、いかにも文にルールがないことのようにとらえられがちだが、そうではない。日本語の表現は、場面あるいは文脈と強い関係をもつて成り立っており、必要でない場合は省略することのほうが、むしろ自然だとさえ言えるのである。

まず、問いと答えという関係から考えてみよう、

「私は京都へ行きました。」  
という文は、書かれた文としては完璧である。しかし、果たして話の文脈の中でどのような場合にこの文が出現するであろうか。

もし、質問が、

「京都へ行ったかい。」

というものであれば、その場合は、最も単純な形としては、言語そのものを使用しないで、うなずきでもって例文の意味を含んだ応答もできる。

(水谷修著「場面と話し方」より)

### 演習

次の文を原稿用紙に書き写しなさい。(原稿用紙の書き方ルールに従うこと。)

ある病院の一室。ひとりの老人が、ベッドに横たわっていた、立派な個室であり、看護婦はずっとつきつきりだった、これでわかるように、老人はかなりの財産家だった、もつとくわしく言えば、彼は大きな薬品会社の会長、これまで順調で満足すべき人生を送ってきたており、功成り名とげた状態といつていい、そのためか、彼は死期の近いことを自分でも知ってはいたが、べつに未練がましいことも口にもせず、落ち着いていた、老人は横になつたまま声を出した、なあ……。はい。なんでしょうか。

句点（。）が7カ所読点（、）になっているので、句点に直すこと。

会話文が2カ所あるので、それぞれ改行して「」で囲むこと。

会話文以外で改行を2カ所入れること。(段落を作ること。)